

科目 39

科目名	地域フィールドスタディ Business Field Research		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・月・4 限	春・月・5 限	-	-
担当教員名	一守 靖	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>フィールドスタディとは、教室から外（フィールド）に出て、実際のビジネスの現場や市場の現場に赴き、そこで働く人や顧客からの生の声のヒアリングや行動の観察を通して仮説の検証、あるいはニーズの発見を行い、分析・考察することを通して問題発見力や提案力などを養うことを目的とした学習方法です。本講義は特に「地域」という名がついている通り、その対象を新潟県内の人や組織に絞ったりサーチを行います。</p> <p>本講義は、履修者が自らの問題意識を基に取り込むテーマを決め、仮説を設定し、調査対象を決めアポイントメントをとり、そのフィールドに出向いて調査を行い、調査結果の分析と考察を行います。フィールドスタディのアプローチには、次に示すようないくつかのアプローチが考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現実社会における人の行動やモノの動きを観察し、言語化されていない真のニーズを追求する ・ 問題を認識し、その原因と解決方法の仮説を設定し、実際に観察し試すことによって検証する ・ 現場での仕事を実体験することで、公開情報では得られない真実を発見する ・ インタビューやアンケート調査等現場での情報収集を行い、そこから問題や法則を発見する <p><到達目標></p> <p>履修者自身が持つ問題意識を整理して調査テーマを設定し、仮説を構築し、調査計画の立案と事前準備を行い、教室からフィールドに出て人や組織の行動を観察し、分析・考察につなげるという、今後のプロジェクト推進活動や研究活動に必要な基本的アプローチを、フィールドワークの経験を積みながら習得します。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>フィールドスタディ、というアプローチ自体がアクティブ・ラーニングの学びの1つであるといえます。これに加え、各自の取り組みを教室で発表し合い、それに対して担当教員や履修者からのフィードバックを得たり、反対に、他の履修者の発表に対して質問やアドバイスを行うことによって、お互いに学びあう場を提供します。</p> <p><講義計画></p> <p>1 回目： <社会調査とフィールドスタディ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要点：講義の全体像と進め方を説明したあと、社会調査のプロセスとそこでのフィールドスタディの位置づけを説明します。さらに、次の週に履修者からの発表してもらう予定の「調査テーマの選定」について、考え方を説明します。 <p>2 回目： <テーマの選定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要点：各履修者がそれぞれ選定したテーマについて報告し、履修者全員でディスカッションします。その後、次の週に履修者からの発表してもらう予定の「先行研究調査」について、考え方を説明しま 				

す。

3 回目：＜先行研究調査＞

・要点：各履修者がそれぞれのテーマにおいて行った先行調査結果を報告し、履修者全員でディスカッションします。その後、次の週に履修者からの発表してもらう予定の「作業仮設の設定」について、考え方を説明します。

4 回目：＜作業仮設＞

・要点：各履修者がそれぞれのテーマについて設定した作業仮設を報告し、履修者全員でディスカッションします。その後、次の週に履修者からの発表してもらう予定の「調査の企画」について、考え方を説明します。

5 回目：＜実地調査の企画＞

・要点：各履修者がそれぞれのテーマに関する実地調査の企画を報告し、履修者全員でディスカッションします。その後、次の週から履修者が取り組むフィールドスタディについて、実施上の留意点などを説明します。

6 回目：＜フィールドスタディ実施報告（交渉状況）＞

・要点：各履修者がそれぞれの実地調査の交渉状況を報告し、履修者全員でディスカッションします。その後、フィールドスタディの基本技法である「インタビュー調査法」について説明します。

7 回目：＜フィールドスタディ実施報告（交渉状況）＞

・要点：各履修者がそれぞれの実地調査の交渉状況（すでに調査を開始した履修生は進捗状況）を報告し、履修者全員でディスカッションします。その後、フィールドスタディの基本技法である「参与調査法」について説明します。

8 回目：＜フィールドスタディ実施報告（実施状況）＞

・要点：各履修者がそれぞれの実地調査の進捗状況を報告し、履修者全員でディスカッションします。その後、フィールドスタディの基本技法である「エスノグラフィー」について説明します。

9 回目：＜フィールドスタディ実施報告（実施状況）＞

・要点：各履修者がそれぞれの実地調査の進捗状況を報告し、履修者全員でディスカッションします。その後、フィールドスタディの基本技法である「ケーススタディ」について説明します。

10 回目：＜フィールドスタディ実施報告（実施状況）＞

・要点：各履修者がそれぞれの実地調査の進捗状況を報告し、履修者全員でディスカッションします。その後、次の週に履修者からの発表してもらう予定の「調査結果の分析」について、考え方を説明します。

11 回目：＜フィールドスタディ実施報告（分析）＞

・要点：各履修者がそれぞれの実地調査結果の分析を報告し、履修者全員でディスカッションします。必要に応じ、関連トピックスの講義を行います。

12 回目：＜フィールドスタディ実施報告（分析）＞

・要点：各履修者がそれぞれの実地調査結果の分析を報告し、履修者全員でディスカッションします。必要に応じ、関連トピックスの講義を行います。その後、次の週に履修者からの発表してもらう予定の「調査の考察」について、考え方を説明します。

13 回目：＜フィールドスタディ実施報告（考察）＞

・要点：各履修者がそれぞれの実地調査の考察を報告し、履修者全員でディスカッションします。

14 回目：＜フィールドスタディ実施報告（考察）＞

・要点：各履修者がそれぞれの实地調査の考察を報告し、履修者全員でディスカッションします。その後、次の週に履修者からの発表してもらう予定の「最終プレゼンテーション」について、考え方を説明します。

15 回目：〈最終プレゼンテーション〉

・要点：取り組み全体をパワーポイントでまとめ、プレゼンテーションを行います。その後、本講義での取り組み全体について履修者全員で振り返り、議論します。

〈講義の進め方〉

本講義は、毎週与える課題の準備とその発表、ならびにクラスでのディスカッションをステップ通りに進めていくことによって、フィールドでの経験を中心とした社会調査の基本プロセスを体験することができる設計になっています。

講義の前半は取り組むテーマの選定、先行研究調査、仮説の構築などを行いつつ、フィールドスタディの実施対象やアプローチを検討・決定します。この段階では、各自のアイデアや取り組みを毎回発表してもらい、それに対してディスカッションを行うことによってテーマや取り組み方法をブラッシュアップします。

講義の中盤からは、実際に各履修生がフィールドスタディを行い、講義中にその進捗報告をしていただき、その報告に対して担当教員と履修生、および履修生間でディスカッションしながら次の活動につなげていきます。講義の最終回に、成果発表を行い、活動の振り返りを行います。

本来はその場に赴き、そこに流れる空気も含めて感じ学ぶことができればベストですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、オンライン形式で外部と触れ合うアプローチも検討します。

〈講義計画〉に記載の通りで進めていく予定ですが、履修者の理解の度合い、履修者のフィールドスタディの進捗状況によって適宜内容を修正する場合があります。また、履修者数によっては、各回における履修者からの発表は担当教員が指名した者だけになる場合があります。

〈事前事後学修内容〉

事前学習としては、調査研究の基本プロセスに基づいて、次週に向けて準備すべき課題を出しますので、その準備が必要です。事後学習としては、講義中に発表した内容に対する担当教員や他の履修生からのフィードバックを各自の取り組み内容に反映させることが必要です。

〈予習・復習時間〉

各回の予習・復習には計4時間相当かかると想定されます。このほかに、フィールドでの調査活動時間が必要になります。

〈教科書及び教材〉

特にありません。

〈参考書〉

- ・『質的研究実践ノートー研究プロセスを進める clue とポイント』萱間真美、医学書院
- ・『聞き取りの作法』小池和男、東洋経済新報社

その他講義時間内外に適宜紹介します

当該書籍は、主に本講義への理解を深めるための自主学習テキストとして位置づけます。

<成績評価方法>

欠席6回以上は成績評価しません。

期末レポート、毎回の発表、ディスカッションへの参加を2:3:5の割合で評価します。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

授業内で発表していただいた内容に対してフィードバックを与えます。

<履修条件>

特にありません。

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

月曜日3限と6限。面談の重複を避けるために、メールにてご連絡ください。

<その他>

履修者は調査の進展に応じてその内容を所定のテンプレートに随時アップデートし、その資料をあらかじめこちらで用意する、履修者だけがアクセス可能な共有ドライブにアップロードしてください。担当教員はその内容を見て、各人の取り組み状況を把握し、発表のアサインメントや必要なサポートを行います。共有ドライブの使用方法については初回に案内します。